

# 平成20年度東北農政局長賞

まちした

## 『町下地区集落営農実践会議』 山形県白鷹町

### 【むらづくりの経緯・動機等】

町下地区は、町内でも農業をリードする先進的な地区であったが、養蚕業衰退による所得低下や荒廃桑園地の拡大、将来の担い手不足等の課題を抱えていた。このため、平成元年に町の集落営農モデル地区の指定を契機として地区協議会を設立し、目標の「1地域1農場」の実現へ向け活動を開始した。同会は集落全戸の意向調査を行い「町下地区営農ビジョン」を策定するなど、農業の課題解決に向け地域全体で取り組むこととした。

### 【位置】



### 【地区の概要】

町下地区集落営農実践会議

項目	内容	
規模	集落	(4 集落)
性格	地縁的な集団	
農家率 (内訳)	総世帯数	43.1 % 794 戸
	農家数	342 戸
	販売農家数 (内訳)	220 戸
主要作物 (作付面積)	専業農家	29 戸
	種農家	55 戸
	種農家	136 戸
	水稲	959 ha
	トマト	13 ha
	りんご	51 ha
	大豆	87 ha
販売農家数は、旧東根市のデータ 主要作物は、白鷹町のデータ		

### 【推進体制】

町下地区集落営農実践会議(195戸)は、代表を地区長(自治組織)を中心とし、蔬菜園芸生産組合、果樹生産組合、畜産団体等の農業生産部門面からなる「農地部会」と、各種交流活動等の中心となる「交流部会」による組織的な体制により活動している。

### 【生産面への寄与状況】

担い手農家による農作業受委託組織「<sup>どりいむ</sup>土里夢ファーム」は、園芸部門と競合する水稻育苗の作業受託・協業作業を実施するなど、白鷹町におけるモデル組織となっている。なお、現在は法人化に向けての取り組み中である。

畑地整備(3.7 ha)により2名の耕作者に農地を集積させるとともに、果樹や地域特産の薄皮丸なす等の栽培に取り組んだ結果、農産加工活動へと繋がり農家所得の向上に寄与している。



### 【生活・環境整備面への寄与状況】

園芸部門は生産規模の拡大による産地強化の取り組みを行っており、特にミニトマト部門は新規就農者(2名)、新規参加者(5名)が確保された。また、生産技術も高く研修生の受入も行っている。



農業体験活動などの企画立案・実施は、非農家や女性が主に行い農家が支援。

特に直売所の設置は、地元からの強い要望により実現されたもので、出荷者は女性、高齢者だけでなく、経営主にも広がり、町の産業振興の拠点となっている。また、通年での直売所の確保が、多種類の加工品開発へと発展し、白鷹町内の25におよぶ加工グループに活気をもたらすなど、地域活性化に繋がっている。